第24号　2016年10月

北海道大学 Hokkaido University Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター
ニュースレター

特集　玉類の考古学 -飾玉編-

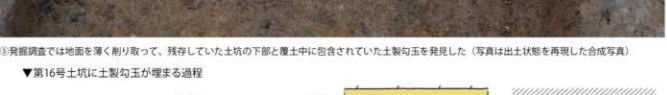
考古学では、球状の人工物を玉類と総称します。その中には、漁網の重りとして用いられた実用の玉(土玉など)と、ネックレスやペンダントなどとして用いられる装飾用の玉(勾玉、大珠など)があります。後者の飾玉については、宝石を意味する『珠』の漢字をあてることがあります。

本特集では、北大構内の遺跡で発見された飾玉を取り上げます。

管理棟地点で2点の土製勾玉が発見された(縄文文化)。1が第16号土坑出土の勾玉。

⑤発掘調査では地面を薄く削り取って、残存していた土坑の下部と覆土中に包含されていた土製勾玉を発見した（写真は出土状態を再現した合成写真）

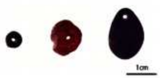
▼第16号土坑に土製勾玉が埋まる過程



▲K39遺跡管理棟地点の第16号土坑から発見された土製勾玉

発掘調査で土坑内に堆積した覆土（黒色粘土質シルト層）から土製勾玉1点がみつかった(右上写真)。土坑からは土製勾玉以外出土していない。廃絶された土坑が埋まる際に偶然入り込んだものか、当時の人が意図的に埋めたものなのか。

玉類の発見された地点



▲K39 遺跡エルムトンネル地点発見の玉類（左：土製丸玉、中央：琥珀製玉、右：頁岩製玉）擦文文化中期。

▲K39 遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点の琥珀製臼玉。続縄文文化前半。

▲K39 遺跡恵迪寮地点で発見された土製丸玉。擦文文化中期。

番号	地点	出土位置	出土状況	種類	材質	点数	時期	報告書	発行年
1	K39遺跡第9次調査地点	7a層	フローテーション選別作業で検出	垂飾品	泥岩	1点		K39遺跡第9次調査	2002
2	K39遺跡エルムトンネル地点	5a層 炉跡(HE)06	フローテーション選別作業によって検出	小玉	ガラス	1点	擦文	K39遺跡第6次調査地点(第2分冊)	2001
		5a層 炉跡(HE)05	フローテーション選別作業によって検出	小玉	ガラス	1点	擦文		
		5a層 焼土粒集中範囲(DB)06	フローテーション選別作業によって検出	小玉	ガラス	1点	擦文		
		6a層 炭化物集中範囲(DC)12	フローテーション選別作業によって検出	小玉	土製	1点	擦文	K39遺跡第6次調査地点(第3分冊)	2001
				臼玉	琥珀	1点	擦文		
		4a層 炭化物集中範囲(DC)12	覆土内	垂飾品	頁岩	1点	擦文		
		4a層 HP09	カマド焚口中から検出	装飾品？	エゾシカの角	1点	擦文		
3	K39遺跡恵迪寮地点	第2文化層炭化物マウンド	覆土内	丸玉	土製	15点	擦文	サクシュコトニ川遺跡(1)、(2)	1986
		炭化物集中(炭化物50)	覆土内	小玉	土製	1点	擦文		
		炭化物集中(炭化物52)	覆土内	小玉	土製	1点	擦文	サクシュコトニ川遺跡(1)、(2)	1986
4	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	西区8a層HP01	覆土5層から検出	有孔円盤状	土製	1点	擦文	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書	2011
		西区8a層	167-132から検出	有孔円盤状	土製	1点	擦文		
		西区8b層HE01	炭化物や小骨片が混じる1層から剥片、砕片、動・植物遺存体などとともに検出	小玉	滑石	1点	続縄文末		
		西区8b層HE05	焼土粒や焼骨片が混じる1層から、剥片、砕片、動・植物遺存体などとともに検出	小玉	はんれい岩	1点	続縄文末		
				小玉	カリガラス	1点	続縄文末		
		西区8b層HE06	1層から炭化物、焼土粒、小骨片、剥片、砕片、動・植物遺存体などとともに検出	小玉	はんれい岩	1点	続縄文末		
				小玉	生物起源	1点	続縄文末		
		西区8b層HE09	炭化物や焼土粒、焼骨片が混じる1層から剥片・砕片、動・植物遺存体等とともに検出	小玉	角閃岩	1点	続縄文末		
		西区8b層DB07	炭化物や焼土粒が混じる1層から砕片、動・植物遺体とともに検出	小玉	砂岩	1点	続縄文末		
		西区8b層DC10	炭化物や焼骨片が混じる1層から砕片、動・植物遺存体などとともに検出	小玉	はんれい岩	1点	続縄文末		
		西区8b層	—	小玉	はんれい岩	1点	続縄文末		
5	K39遺跡ポプラ並木東地区地点	1号土壙	土壙の底部から出土	丸玉	ガラス	3点	続縄文末	北大構内の遺跡6	1987
		3号土壙	土壙の底部から出土	小玉	滑石	726点	続縄文末		
		4号土壙	覆土内	小玉	滑石	2点	続縄文末		
		5号土壙	覆土内	小玉	滑石	17点	続縄文末		
		ブロック11	覆土内	小玉	滑石	1点	続縄文末		
		ブロック12	覆土内	小玉	滑石	4点	続縄文末		
		ブロック12	覆土内	有孔礫	不明	1点	続縄文末		
		ブロック15	覆土内	有孔礫	不明	1点	続縄文末		
6	K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点	12c層	H-20から検出	管玉	滑石	1点	続縄文	K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点発掘調査報告書 1	2004
			F-2から検出	有孔垂飾品	瑪瑙	1点	続縄文		
		14a層	E-15、E-20、F-20から検出	臼玉	琥珀	4点	続縄文		
			F-5から検出	臼玉	滑石	1点	続縄文		
			G-15から検出	有孔垂飾品	硬質頁岩	1点	続縄文		
			F-4から検出	有孔垂飾品	カンラン岩	1点	続縄文		
7	K39遺跡附属図書館本館再生整備地点	HP01煙道	カマド3a層から検出	不定形玉	琥珀	1点	擦文	北大構内の遺跡19	2012
		HP01	覆土5層から検出	垂飾品	泥岩	1点	擦文		
8	K39遺跡医学部実験実習棟地点	HP04	覆土3層から検出	垂飾品	砂岩	1点	擦文	北大構内の遺跡22	2016
		3a層	86-121から検出	小玉	ガラス	1点	続縄文末		
9	K39遺跡管理棟地点	遺物包含層	—	勾玉	土製	2点	擦文	平成28年度発掘調査実施(未報告)	
10	K39遺跡旧留学生センター地点	PIT01	覆土1層	小玉？	琥珀	1点	続縄文	第8回北海道大学埋蔵文化財センター調査成果報告会 要旨集	2016

■ 擦文文化の土製勾玉

北海道における飾玉の出現傾向を簡単に整理すると、縄文文化では翡翠製(勾玉・丸玉)、続縄文文化前半では琥珀製(臼玉、管玉)、続縄文文化後半～末期ではガラス製(丸玉)、擦文文化ではガラス製(小玉)、土製(丸玉、勾玉、滑石製玉)、アイヌ文化期ではガラス製(丸玉)のものが発見されています(飾玉の形・種類については4頁参照)。

上記の縄文文化、続縄文文化の飾玉はほぼ全道的分布を示すのに対して、擦文文化の土製勾玉は出土地域、時期が限定されます。右図のように、土製勾玉の出土は、道央部、擦文文化前期(ほぼ8世紀～9世紀前半)の遺跡だけです。祝梅三角山D遺跡(千歳市)では、第4号住居址の西側約2mの位置で、土製勾玉14点が土製小玉20点とともにまとまって発見されました。

▲擦文文化の土製勾玉および縄文～続縄文文化の飾玉が出土した遺跡の分布図

■ 素材の理化学的分析 (ガラス玉の成分分析からわかること)

ガラス玉は、見ただけではどのような違いがあるのかなかなかわかりません。そこで、成分分析をすることによって、産地推定などを試みています。北大構内のポプラ並木東地区地点から出土したガラス玉(図1)の成分分析を函館工業高等専門学校で行っているのでその結果を紹介してみましょう(表1)。

本州から出土する古代ガラスは、鉛ケイ酸塩ガラスとアルカリケイ酸塩ガラスに大きく分けられ(図2)、各成分の玉が時代によって変遷することが知られています(図3)。表1には酸化鉛(PbO)成分がほとんど含まれていないので、アルカリケイ酸塩ガラスであり、さらに分けるとソーダ石灰ガラスのなかの「植物灰ガラス」に分類されることがわかりました。材質としては西アジア系統のガラスと考えられています。

北海道の続縄文文化では、後北式土器に伴う遺構から、引き延ばし技法による紺色と淡青色のガラス玉が出土しており、成分分析からカリガラスに分類されることが知られています。本州の弥生文化、古墳文化前期にみられるものです。ポプラ並木東地区地点のガラス玉は、それより新しい北大Ⅰ式土器に伴うものです。「植物灰ガラス」は本州の古墳文化中期～後期にかけてみられる材質であり、本州と北海道のガラス玉の材質が同じように変遷がすることが分かってきました(札幌国際大学:越田賢一郎)。

図1　K39遺跡ポプラ並木東地区地点出土のガラス玉

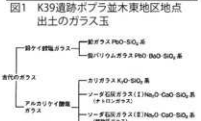


図2　本州で出土した古代ガラスの種類(註1)

図3　日本列島におけるガラス材質の変遷(註2)

註1, 2　引用文献:　肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦　「材質とその変遷」「月刊文化財」56　2010年刊行

表1　K39遺跡ポプラ並木東地区地点出土のガラス玉分析　　JEOL JSM-6360LA 20kv　1.9～2.0　nA 100sec　ZAF法　簡易定量分析(酸化物)

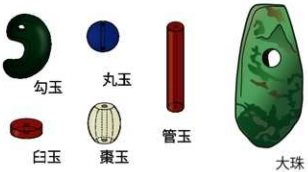
No	試料名	F	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	P_2O_5	Cl	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	FeO	CoO	SnO_2	Sb_2O_3	CuO	As_2O_3	BaO	PbO	Total
1	ポプラ並木 No1299		4.42	3.09	3.98	69.85	0.23		0.99	3.97	7.05	0.19	0.17	1.84		3.76				0.20	0.35	99.98
2	ポプラ並木 No1300		3.91	2.93	4.06	66.20	0.26		0.91	3.73	7.60	0.40	0.22	2.16	0.16	3.44	0.21			0.24	0.27	99.98
3	ポプラ並木 No1314		4.18	2.26	4.03	72.85	0.57	0.01	0.99	4.91	3.55	0.23	0.04	1.62	0.06	2.97	1.29	0.15		0.20	0.06	99.97

主要な成分　特徴的な成分量

飾玉とは

飾玉とは、光沢のある材料が使われたり、穿孔がされたりした玉で、装身具などの装飾用や儀礼用と考えられるものです。代表的な材料では、翡翠、瑪瑙、琥珀、金、銀、ガラスなどがあげられ、それら以外に骨、角、牙、貝殻、木の実、粘土などもあります。

飾玉は、形態によって分類され、右図のように名称がつけられています。また、小粒な玉(直径約5mm以下)を形態に関わらず「小玉」と総称する場合があります。



▲飾玉の種類
主な飾玉には、勾玉、丸玉、臼玉、棗玉、管玉がある。大珠は、長軸5cm以上の楕円形で、縄文文化中期の翡翠製大珠が有名である。

平成28年度発掘調査現地説明会の実施

平成28年5月26日にK39遺跡管理棟地点の発掘調査場所、平成28年7月20日にK39遺跡獣医学研究科大動物実験研究施設地点の発掘調査場所において、現地説明会を開催しました。管理棟地点では67名、獣医学研究科大動物実験研究施設地点では、66名の参加者が集い、センター員によって、竪穴住居址(擦文文化)の調査状況、発掘調査によって見つかった資料などが説明されました。

管理棟地点での様子 ▶

▲獣医学研究科大動物実験研究施設地点での様子

平成28年7月31日(日)に「擦文文化集落のひろがりを探る」と題したトレイルウォークを開催しました。90名の参加者とともに、遺跡保存庭園、発掘調査が行われている場所を巡り、当センター員による説明が行われました。暑さ厳しく、突然の雨が降り始める天候の中、無事に終了しました。

企画展の開催

当センターでは、本号に基づく企画展『玉類の考古学ー飾玉編ー』(仮題)を近日中に行う予定です。この機会に是非ご覧ください。

第15回人類遺跡トレイルウォークの実施

編集後記

本年度に入り、三つの発掘調査が続きました。本号で紹介した1頁の資料はその成果の速報です。本ニュースレターの刊行が少し遅れましたが、ケガの功名、新知見の紹介ができました。

札幌国際大学の越田賢一郎氏は、理化学的な成分分析によるガラス玉の研究に取り組まれております。今回は、当センターが提供した資料の分析成果を紹介させていただきました。記してお礼を申し上げます(守屋)。

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第24号
発行 : 北海道大学埋蔵文化財調査センター 2016年10月31日
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目
電話 : 011-706-2671 FAX : 011-706-2094
e-mail: hokudaimaibun@gmail.com
URL : http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html
印刷 : 柏楊印刷株式会社